

# GMナタネ抜き取り隊始動!



▲抜き取り隊が行動開始。1392本の自生ナタネを採集した

グリーンコープは、遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーンの呼びかけに連帯し、遺伝子組み換え(GM)反対運動に取り組んできました。

その一つ、自生GMナタネ汚染調査活動をはじめから5年。グリーンコープ生協ふくおかの調査箇所である福岡市博多港周辺では毎年GMの陽性反応が出ており、汚染の広がりが懸念されています。自生GMナタネの広がりを少しでも防ごうと、ふくおかでは直接抜き取っていく取り組みがはじまりました。

2009年11月21日に行われた第1回GMナタネ抜き取り隊の活動のようすを報告します。



▶簡易検査でラウンドアップ、パスタの両方に陽性反応が出たものもあった



▲組合員も検査に参加し、自生ナタネのGM汚染の広がりを確認した

▶根が張って抜きにくいナタネも

**日** 本では食用油の原料となる輸入ナタネのほとんどがGMナタネ。それが輸送中にこぼれ落ちて自生し、汚染が広がっていることが分かった。さらにこの自生GMナタネが越冬し、本来一年草のはずのナタネが多年草化している実態が各地で観察されている。しかも、5〜6年以上も発芽能力があるとされている。このままにしておくとGM汚染が広がり、ナタネの近隣種であるチンゲンサイやブロッコリーなどと交雑する可能性もある。

### 多重耐性ナタネを発見

2004年、茨城県鹿島港周辺でGMナタネが自生しているという農林水産省の発表を受け、「遺伝子組み換えを考える中部の会」(以下、中部の会)は三重県

### ふくおかでの取り組み

このような状況にグリーンコープ生協ふくおかは危機感を持ち、抜き取り隊を立ち上げることにした。これまで2009年8月29日にGMナタネ抜き取

り隊立ち上げ準備会、10月14日GMナタネ抜き取り隊立ち上げ集会を開催。遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーンの呼びかけで全国的に調査活動がはじまった。グリーンコープでも調査活動を行った結果、福岡県博多港周辺でも自生しているGMナタネが見つかった。その年、国内農業や環境への影響を避けるために、このままにはできないと千葉港周辺で市民グループが自生GMナタネ抜き取りを開始した。2006年には中部の会でも大規模に抜き取り調査をはじめた。千葉港では除草剤のラウンドアップと、パスタの両方の耐性を持つ多重耐性ナタネが発見されている。これは政府がGMナタネの輸入を認可した時点では予想されていなかったことである。

**募集**

## 2010年 シャボン玉月間ポスター (募集要項)

でき上がり寸法: B3(横36cm 縦51cm)  
色など: カラー(紙、データ(PDF添付))  
必ず入れる文字: (2010年キャッチコピー)  
「せっけんっていいな♡」 地球のキモチ

内容: 「石けんを使う暮らしの提案」、「水環境保全についての提案」など  
※住所、氏名、電話番号、所属協名を明記する  
締切り: 2010年3月15日必着(メールまたは郵送で)  
採用作品決定: 2010年3月17日  
賞金: 3万円(採用作品のみ)

(作品の送り先・問い合わせ先)  
〒336-0021 さいたま市南区別所5-1-11 生活クラブ生協(埼玉)本部内 協同組合石けん運動連絡・事務局  
TEL・FAX 048-863-7896 E-mail kyosekiren@opal.ocn.ne.jp

**子どもたちの未来のために** No.19

## 玄海原発で日本初のプルサーマル操業

2009年11月から佐賀県の玄海原発で、日本初のプルサーマルによる送電がはじまりました。「核燃料のリサイクル」と宣伝され、いかにも環境重視の姿勢であるように言われています。しかし、核燃料リサイクルは技術の問題やコストの面にしても難しいと指摘されています。私たちが納得できる情報をきちんと開示すべきです。通常原発でさえ、使用済み核燃料は「安全な処理方法として地中深くへの地層処分をする」とも言われています。安全と言うのは本当でしょうか? 無毒化する技術もないのに大量の使用済み核燃料を生み出してしまったので「地盤に埋めている」だけなのです。プルサーマルについては、その処理はもっとやっかいで、MOX燃料を使った後の使用済み核燃料の処理法については何も決まっていません。数万年とも言われる管理が必要で、大きな負の遺産を子孫に負わせることになるのです。プルサーマルの運転を停止し、みんなで原発に頼らない暮らしをつくっていくことが大切です。

グリーンコープ共同体組織委員会

## 投稿募集中

●私の好きなグリーンコープ商品  
●400字程度 ●毎月月末  
●住所・氏名・年齢・TEL・所属協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。  
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅前中央街8-36 博多ビル7F  
グリーンコープコミュニケーション ワークス連(REN) 「共生の時代」編集部 宛  
FAX 092-481-7876  
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

津口 八重子

私の好きなグリーンコープ商品  
味噌をつくって豊かな人生

日本人であるなら、ましてや味噌汁が好物となれば「せめて味噌は自分の手でつくらなければ」という私の思いは、1991年6月に成就した。近くのグリーンコープ高雄店で開催された「店舗まつり」の一環として「味噌づくり講習会」が行われ、店舗委員の一人として携わった。それ以来味噌をつくり続けて18年。味噌の甘さが際立つ手づくり味噌は懐かしい味として、あの方の方が待っていてくださる。

2006年6月、地方紙の投稿欄に設けられたテーマ「朝ごはん」に、思いきつて味噌づくりへの思いを初めて投稿して掲載された。今では味噌づくりと投稿は私に欠かせぬ両輪となり、味噌をつくることにより、味噌した豊かな人生に感慨もひとしおである。

安心安全の国産大豆と椀島商店の麹によって生まれる手づくり味噌は、ふくいくとした香りを放つ大切な宝物。地球温暖化を気にしながらも生産者の皆さんに感謝し、伝統食品が受け継がれていくことを願わずにはいられない。

グリーンコープ生協ふくおか